表紙, 目次, 抄録, 雑纂, 漫録, 通信

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38700

十全會雜誌

明治三十五年五月三十一日發行

第二十三號

《非賣品》

金澤醫學專門學校十全會

十全會雜誌第二十三號目次

○原　著

○盲腸歇兒尼亞ノ實驗例追加　醫學得業士　東　良　平述

○骨萎縮ノ組織學的研究並ニ其結果（畸形性骨炎及關節炎）ニ就テ　醫學博士　木村孝藏述

○抄　錄

○尿道絲內ニ於ケル「ゴノコッケン」ノ證明……エフ、ウヰンクレル

○淋疾性關節僂麻質斯ニ侵サレタル腕上ニ贅毛症ヲ發シタル一例……フォン、カルノウスキ

○白癬及其療法……サロウェーウ

○淋疾性關節炎ノ療法……エム、ポックハルトレーム

○冷浴後ノ蛋白尿ニ就テ……ア、ナイセル

○梅毒ヲ家猪ニ傳播セシム可キ試驗ニ就テ……

○再ビ類菌ト結核菌ノ混合傳染ヲ有スル淋巴腺ニ就テ……光田健輔

○滲出性肋膜炎ノ甚ダ早キ一症候……プルゼアルスキー

○雜　纂

○皮膚病學ニ於ケル顯微鏡的技術……南　溪　生

○紫金の星……岡島狂花

○漫　錄

○會　報

○叙任及辭令○會員動靜○第二十四回講話會○第二十五回講話會○十全會講話部第一回總會○獨逸語學會○劍道紅白勝負○武術寒稽古皆勤者○本校紀念式○劍道及柔道進級證附與○體格檢査成績○醫學科第四年級會○校旗寄附○山碕幹氏の撮影寄送○故小田隆甫君紀念書寄附○義捐○新著寄附○入退會者

○通　信

○高松多齊氏の通信○橋本喜久三氏の通信○山碕教授の通信○佐伯亮齊氏の通信○藤岡勝治氏の通信

○會　告

○寄贈書目○會費領收

抄錄

○尿道絲內ニ於ケル「ゴノコッケン」ノ證明

(Monatsheft f. prakt. Dermatologie. XXXIII. 1901. Nr. 6.)

慢性淋疾ニ於テ尿道絲ノ顯微鏡的檢査ノ必要ナルヿハ人ノ知ル所ニシテ此者ハ尿ヲ長ク放置スルトキハ速カニ消失スル者ナリ然レモ若シ尿中ニ「フォルマリン」ヲ注加スルトキハ其分解ヲ防止シ以テ其中ニ存スル所ノ「ゴノコッケン」ヲ染色スルヲ得ベシ但シ之ヨリ更ニ可ナルハ尿ヲバ「フォルマリン」蒸氣中ニ置クニ在リ著者フェルヂナンド、ウヰンクレル氏ハ推測スラク尿中ニハ一種ノ折出スル所ノ消化醱酵素アリテ淋疾絲ヲ溶解スル者ナラムト蓋シ「パンクレアチン」ノ消化ニ由テ「ゴノコッケン」ハ其染色力ヲ失フコトハ事實ナルヲ以テ尿中ニ存在スル所ノ「トリプシン」ハ「ゴノコッケン」ヲ破壞スルニ與テ力アル者ナリトノ結論ハ當ヲ得タルモノナラム (南溪抄)

○淋疾性關節儚麻質斯ニ侵サレタル腕上ニ贅毛症ヲ發シタル一例

(Monatsheft f. prakt. Dermatolegie. XXXIII. 1901. Nr. 5.)

ア、フォン、カルノウスキー A. v. Karnowski 氏ハ二十四歳ノ寫眞師ニシテ第二回ノ淋疾感染後第四周ニ於テ右側ノ拇指及腕關節ニ淋疾性儚麻質斯ヲ發シタル者ニ沃度丁幾ヲ塗布シ患肢ヲ固定シタルニ十四日ノ後同側ノ前膊ニ於テ肘關節ヨリ手背ニ亘リテ美麗ナル暗黑色ノ毛ヲ發生セル者ヲ實驗セリト云フ著者ハ以爲ラク此場合ニ於ケル後天性贅毛症ハ恐ク「ゴノコッケン」ノ特異ナル毒素ノ作用ニ因ル者ナラムト

抄錄者モ嘗テ腕關節炎(淋毒性ノ者ニハアラザリシ)ニ

羅レル一男子ノ患部ニ長ク石炭酸水罨法ヲ施サレタル者ニ局所性贅毛症ヲ發シタル者ヲ實驗セルコトアレドモ此場合ニ於ケル贅毛症ハ恐ク單ニ藥物ノ刺戟ニ因リタルモノナラム　（南溪抄）

○白癬及其療法

（Woenmo-med. Jour. 1901. April.）

ペ、ザロウェーウ P. Salowjew 氏ハデミドー氏ノ始メテ白癬ニ「フォルマリン」ヲ稱用セル法ニ倣ヒ十二人ノ患者ニ之ヲ試ミタルニ皆滿足ナル結果ヲ得タリト氏ノ用ヰタル液ハ五乃至十%ニシテ最初ニ患部ノ痂皮ヲ除キ然ル後該液ヲ塗擦シ其上ニ綿花ヲ貼シテ繃帶ヲ施セリ此法ニ據ルトキハ白癬小甲ハ直ニ消失シ後チ皮膚ノ充血及毛根部ノ凹陷モ消散シ二乃至三周ノ治療ニ由テ全ク治癒シ殆ンド再發ヲ來スヿ無シ而シテ此法ヲ施スニハ拔毛法ヲ要スルコト無ク頭皮ハ治後尋常ノ狀態ニ復スルヲ以テ著者ハ「フォルマリン」ヲ以テ白癬ニ最モ速効アリ且根治的ノ藥物ナリト云ヘリ

抄錄者ハ白癬ニ對シ屢々其軟骨（十%）ノ塗擦ヲ行ヒタルヿ有レドモ常ニ著シク痂皮ヲ形成スルヲ見タリ故ニ該藥ハ水溶液トシ用ユルヲ良トスル者ノ如シ　（南溪抄）

○淋疾性關節炎ノ療法

（Monatsheft f. prakt. Dermatologie. XXXIII. 1901. Nr. 11.）

ヨム、ボックハルト M. Bockhart 氏ハ淋疾性關節炎ノ患者六十五名ニ左ノ法ニ由リ撒里失兒酸曹達ヲ與ヘタリ即チ第一日ニ八乃至十瓦、第二日ニ六瓦、第三日及第四日ニハ毫モ投藥セズ斯クテ第五日及第六日ニハ毎日一瓦宛ヲ與ヘ第七日ヨリ第九日マデハ再ビ休藥シ次デ又二日間四乃至六瓦ヲ與ヘタリ而シテ此最後ノ處方（二日間毎日四乃至六瓦ヲ與ヘ次デ三日間休藥ス）ハ治癒ニ至ルマデ持續スルナリ其疼痛アル關節ハ「イヒチオール」綿花繃帶ヲ施シ後プリースニッツ氏繃帶又ハ熱キ鉛水罨法ニ代ユ

斯クテ著シキ疼痛ナクシテ關節ヲ運動シ得ルニ至レバ列氏二十六度ヨリ二十八度ノ溫浴ヲ取ラシム著者ハ撒里失兒酸曹達ヲシテ奏効セシムルニハ之ヲ間歇的ニ服用セシムルノ必要ナルヿヲ說ケリ氏ノ治療セル六十五人ノ患者ニ就テハ毫モ再發症ヲ來サザリシト又固定繃帶ハ屢々關節ノ强直ヲ起スヲ以テ氏ハ淋疾性關節炎ニハ固定繃帶ヲ施スノ必要ナシト論ゼリ　（南溪抄）

○冷浴後ノ蛋白尿ニ就テ

（Il Policlinico. 1901. No. 9.）

レーム Rem 氏ハ試驗ニ基キ一定ノ蛋白尿ハ眞ニ甚ダ寒冷ニシテ且ツ持長セル冷浴ニ由テ發スルコトヲ主張シ斯ノ如キ浴法ハ概シテ禁忌スベキ者ナルコトヲ論ゼリ但シ冷浴後一時發スル所ノ蛋白尿ハ固ヨリ豫後ノ不良ナル者ニアラザレ𪜈之ヲ長ク持續スルトキハ寒冷作用ノ爲メニ腎臟組織ニ除クベカラザル障碍ヲ招ク者ニシテ之ヲ發スルヤ迷走神經ハ皮膚ニ於ケル末梢神經ノ媒介ニ由リ榮養障碍ヲ蒙ムルニ者ナラムト云ヘリ　（默堂抄）

○梅毒ヲ家猪ニ傳播セシム可キ試驗ニ就テ

（Archiv f. Dermatogie u. Syphilis. Band 59. Heft 2. 1902.）

ア、ナイセル A. Neisser 氏ハ十八頭ノ家猪ニ就テ本題ノ試驗ヲ行ヒタルガ試驗ノ順序ハ次ノ四類ヨリ成レリ

（一）新發セル第二期梅毒患者ノ未ダ治療ヲ加ヘザル者ヨリ血液ヲ採リ之ヲ動物ニ注射セリ

（二）梅毒患者ノ組織ヲ動物ノ皮下ニ接種セリ

（三）原發症ノ分泌物ヲ皮膚內ニ擦入セリ

（四）最初ニ健康人ノ血清ヲ注射シ次デ治療ヲ加ヘザル梅毒患者ノ血清ヲ注射シ最後ニ接種セリ

此試驗ニ於テ陽性ノ成績ヲ得タルハ唯一頭ノ家猪（第十三號）ノミニシテ此甚ダ注意ヲ喚起スベキ所見ノ梅毒性ナルヿハ次ノ諸點ナリトス

（一）發生セル發疹ハ各自ノ發育ニ於テモ又各皮疹ノ進行シテ輪狀疹トナレル者ニ於テモ實ニ丘疹狀若クハ圈狀丘疹狀梅毒疹及小膿疱疹性梅毒疹ノ狀ヲ呈セリ

（二）此ノ所見ハ幾分カヒューゲル、ホルツハウゼル氏ノ試驗ニ於テ認メタル者ト一致セリ

（三）獸醫ノ證言ニ據レバ此發疹ノ狀ハ家猪ニハ未ダ曾テ見ザル所ノ者ナリト

（四）此發疹ノ發生ニ就テハ他ニ原因ノ證明スベキ者ナシ

然レ𪜈發疹ノ梅毒性ナルヿニ反スルヿハ次ノ如シ

（一）之ト全ク同一ニ處置シタル動物（第十號ニメ病獸ノ一兄弟ナリ）ニハ毫モ疑ハシキ症狀ヲ發スルヿナカリシヿ

（二）病獸第十三號ヨリ他ノ動物ニ接種試驗ヲ行ヒタルニ其成績陰性ナリシヿ

（三）組織學的所見ハショルツ氏及著者ノ共ニ信ズルガ如ク定型的梅毒性ノ者ト看做スヿ能ハザリシヿ

是故ニ梅毒ノ家猪ニ傳播セラレ得ルヤ否ノ問題ハ今日尚不明ニ屬スト言ハザルベカラズ而シテ著者ハヒューゲル及ホルツハウゼル氏ノ信ズルガ如ク梅毒ハ溫血動物ニ傳染スルトノ說ニ左袒スルヿ能ハズト云ヘリ（南溪抄）

○再ビ癩菌ト結核菌ノ混合傳染ヲ有スル淋巴腺ニ就テ

（中外醫事新報、明治三十五年五月二十日、第五百三十二號）

光田健輔氏ハ曾テ癩病ノ淋巴腺ニ二種ノ病變ヲ見、加之ラズ乾酪變性竈內及ラングハンス氏巨大細胞內ニ癩菌ノ寄生スルヲ以テ之ヲ癩菌及結核菌ノ混合傳染ナリト結論セシヿ有リシガ（東京醫學會雜誌、第十三卷、第二十一號）頃日又氏ハ東京養育院研究室ニ於テ同一ノ事例ニ接シタリトテ其試檢的所見ヲ詳細ニ論述シ左ノ如ク結論セリ曰ク「余ハ淋巴腺上ニ於テハ結核菌ハ結核病竈ヲ作リ同時ニ癩菌ハ癩病竈ヲ作ル場合數々之レアリテ此際癩菌ハ進

ンデ結核病竈ニ入リ其巨大細胞ノ核列ニ沿テ繁殖シ其固有ノ團塊ヲ作ルノミナラズ結核ノ上皮樣細胞及乾酪變性竈ニモ寄生シテ所謂混合傳染ヲナス是ニ於テアルマウエル、ハンゼン及ロフトノ巨大細胞及乾酪變性ヲ見レバ直ニ結核病變ナリトノ顧ミザル意見ハ甚ダ偏狹ニ過ギタルノ感アリ而シテ本例ニ於テハ結核菌ト癩菌トハ同一ノ要約ノ下ニ生活繁殖シ得テ互ニ混合傳染ヲナスト云フ余ガ當初ノ意見ヲ一層正確ニシタリト信ズ云々（南溪抄）

○滲出性肋膜炎ノ甚ダ早キ一症候

（Centralblatt f. Chirurgie. 1902. No. 14.）

ペ、プルゼワルスキー B. Przewalski 氏ハ數多ノ肋膜炎患者（此中十四人ハ漿液性肋膜炎、五人ハ化膿性肋膜炎ニシテ試穿刺法ニ由テ之ヲ證明セル者ナリ）ニ就テ其初期ニ於テ悉ク皆肋間ノ狹縮ト其部ノ抗抵增加トヲ認メ此症候ハ小兒ニ於テ最モ容易ニ研究スルコトヲ得可シト氏ノ說ニ據レバ滲出性肋膜炎ニ於テ患側ノ肋骨互ニ相近接スルハ恰モ關節炎ニ於テ當該肢節ノ筋攣縮ヲ起スト同一ノ理ニ基ク者ニシテ此症候ハ未ダ何レノ成書ニモ見ザル所ナリト云ヘリ（南溪抄）

＊　＊　＊　＊　＊

雜纂

○皮膚病學ニ於ケル顯微鏡的技術

南溪生

本編ハ伯林ノドクトル、エル、レーデルマン及ポツダムノドクトル、エス、プランクノ兩氏ガ千八百九十五年ヨリ千九百年ニ至ル六ケ年間ニ於ケル皮膚病學上ノ顯微鏡的技術ノ進歩及改善ノ事蹟ヲ纂述セル者ニシテ載セテ本年二月發行ノ皮膚病學雜誌第九卷第一册ニ在リ斯學ニ從事スル者ノ參考ニ資スベキ者少カラザルヲ以テ茲ニ之ヲ抄出スルヿトセリ

（第一）緒論

硬化法、固定法、封固法、凍凝切法、染色法

硬化及固定藥トノ「フォルマリン」

ホイエル氏ハエフ及ヨット、ブルームノ稱用セル十倍若クハ百倍ニ稀釋シタル「フォルムアルデヒード」溶液ヲ使用シタリシガ氏ハ只之ヲ肉眼的切片ノ貯藏ニノミ用ヰ顯微鏡的切片ノ貯藏ニハ不良ナルヿヲ發見セリ後氏ハ販賣ニ供セラルヽ溶液ノ四十%ノ者ヲ用ヰテ一仙迷大ノ組織ハ己ニ數時間ノ後全ク浸透セラルヽヿヲ認メ斯クテ標本ハ增量スル亞爾個保爾中ニ於テ硬化ヲ持續シ「パラフェン」中ニ封固セリ斯ノ如クニメ得タル組織片ハ「ヘマトキシリン」及種々ノ亞尼林色素ニテ善ク染色スルモ朋礬「カルミン」及「メチールグリューン」ニハ染色シ難シ比較試驗ニ徵スルニ「フォルモール」ニ固定セル組織ハ昇汞ニ固定セル者ヨリハ遙カニ美麗ニ貯藏セラルヽ者ニメ中樞神經系統組織ノ染色ニ施スゴルヂー氏ノ法ニ對シテモ「フォルモール」ハ甚ダ適良ニメ而カモ「オスミユウム」酸ヲメ殆ンド顏色ナカラシムル者ノ如シ

然レモラヒー氏ハ之ニ反シテデル、イソラ氏トノ合同ノ試驗ニ由テ「フォルマリン」液ハ一乃至二%ノ甚ダ稀薄ノ者ヲ以テスルモ將タ十乃至十五%ノ甚ダ濃厚ノ者ヲ以テスルモ組織上ニ甚ダシキ有害作用ヲ呈スル者ニメ殊ニ鬆粗且粘液樣ノ組織ニハ害ヲ及ボスヿ多ク原質ハ之ガ爲メ溶解セラルト又橫紋筋細胞ハ之ニ由テ其橫紋ヲ失フモ核ニハ障碍ヲ來スヿ無シ之ニ反シテ「フォルモール」ハ上皮ヲ能ク硬化スル者ニメ細胞ノ形原造構並ニ核及分剖像ハ能ク固定セラレ且能ク色素ヲ攝取ス此他神經組織ニモ最モ稱用ス可シト云ヘリ

凍凝切片ヲ硬化シ次デ之ヲ染色シテ短時間ニ診斷ヲ下シ得ンガ爲メクルレン氏ハ次ノ二法ヲ稱用セリ即チ第一法ニ於テハ新タニ得タル材料ヲバ僅々十五分間ニテ檢査シ得可キモ常ニ鮮明ノ像ヲ得ルヿ能ハズ故ニ此法ハ過敏ナル軟弱ノ組織ノ檢査ニハ適セザレモ第二法ハ切片ヲ造クル先チ之ヲ「フォルマリン」中ニ硬化スル者ニメ此法ヲ施スニハ二時間乃至二時十五分時間ヲ要ス

第一法

（イ）凍凝切片ヲ作リ

(ロ)切片ヲ五〇%「フォルマリン」溶液中ニ浸スヿ(五分時間)
(ハ)五〇%亞爾個保爾(三分間)
(ニ)無水亞爾個保爾(一分間)
(ホ)水ニテ洗ヒ
(ヘ)「ヘマトキシリン」ニテ染色シ(二分間)
(ト)酸ヲ加ヘタル亞爾個保爾ニテ脫色シ
(チ)更ニ水ニテ洗ヒ
(リ)「エオジン」ニテ染色シ(二十秒間)
(ヌ)九五%亞爾個保爾—無水亞爾個保爾—結列阿曹篤或ハ丁子油—加奈陀稜爾撒謨

第二法

(イ)大約1×0,5×0,2cm大ノ新鮮ナル組織片ヲ一〇%「フォルマリン」水ニ入レ二時間硬化シ
(ロ)凍凝切片ヲ作リ
(ハ)五〇%亞爾個保爾(三分間)
(ニ)無水亞爾個保爾(一分間)
(ホ)水ニテ洗フ

再他ハ第一法(ヘ)以下ニ同ジ

ベンダ氏モクルレン氏ノ如ク「フォルマリン」ヲ凍凝切片ノ準備藥トシテ用ヰタレドモ氏ハ新鮮ノ組織ニ於テセズ他法殊ニ亞爾個保爾ニテ硬化シタル材料ニ之ヲ稱用セリ最初亞爾個保爾ヲ以テ處置シタル組織片ハ單ニ水ニ浸漬スルノミニテハ凍凝切片ヲ作ルニ適セズ故ニベンダ氏ハ凍凝「ミクロトーム」ニ適スル大サノ組織片(厚サ大約二密迷)ヲ十五分間ヨリ一二時間一%「フォルマリン」水中ニ投ジテ亞爾個保爾ヲ全ク驅除セシメ次デ之ヲ充分餾水ニテ洗ヒ凍凝セシメタリ

ピック氏ハ顯微鏡的永久標本ヲ速成センガ爲メクルレン氏法ヲ左ノ法ニ由リ短縮セリ即チ氏ハ(一)之ニユング氏ノ鉋薄切器(ホーベルミクロトーム)ヲ用ヰ且ツ(二)標本ヲ一定ノ「フォルマリン」溶液ニ入レ此中ニ於テ同時ニ染色スルヿトセリ此法ヲ以テスルトキハ六乃至八分時ニノ檢査ヲ遂グルヿヲ得可シ其法次ノ如シ

（一）凍凝切片ヲ作リ（一分時）

（二）四％「フォルマリン」溶液中ニ入レ（十五秒間）

（三）「フォルマリン」性明礬「カルミン」中ニ入レ（三乃至四分間）

（四）八〇％亞爾個保爾（三十秒間）

（五）石炭酸「キシロール」（十五秒間）

又プレング氏ハ四％「フォルムアルデヒード」液中ニ硬化シタル組織片ヨリ迅速且便利ニ凍凝切片ヲ作ルニ亦ユング氏ノ鉋薄切器ヲ用ヰタリ氏ノ法ニ據ルトキハ時間ト勞苦トヲ要スル液ノ交換ヲ要セス又封固法ヲ行ハズメ決シテ「ツェロイヂン」標本ニ讓ラザル完美ノ薄片ヲ得ルノミナラズ又能ク色素ニ染色シ長ク亞爾個保爾或ハ他ノ硬化液ニテ處置シタル者ノ如ク之ヨリ永久標本ヲ製スルヿヲ得可シ其法次ノ如シ

（一）手術若クハ解剖ノ際得タル可及的非薄ニメ平滑ニ切リタル大約一仙迷徑ノ小片ヲ四％「フォルムアルデヒード」中ニ硬化シ

（二）凍凝薄片ヲ作リ「フォルムアルデヒード」液或ハ水ニ凍著セシメ

（三）煮沸ニ由テ空氣ヲ除キタル水或ハ之ヨリ善キハ五〇％亞爾個保爾中ニ取リ

（四）亞尼林色素ノ水溶液或ハ朋礬「カルミン」、「ヘマトキシリン」等ニテ染色シ

（五）水洗―亞爾個保爾―油―加奈陀秡爾撒謨……或ハ染色セズメ水若クハ虞里攝林中ニテ檢査ス最後ノ薄片ハ新鮮標本ト毫モ異ナラザル顯像ヲ呈ス（未完）

＊　＊　＊　＊　＊

漫錄

○紫金の星

岡島狂花

あゝ、春の花にさきだちて亡せにしわが米澤啓君。さるにても

世の嵐はあまりにかよわき蕾の
花に强面かりしよ。
ひんがしの御空に淡き
紫の靄のうす衣
色きよきうす紅の
細雲にわかれゆさては
水平をいま朝日はなれて
金色の稚汐が映よ、
風きよき高樓にいまし
病む人はとこにさめたり。
細りたる胸のいたみも
ありし世の希望もわすれ
たゞろゞろ奇しき光の
輝やきに醉ひし黑瞳。
庭のもに白梅咲きて
春きよき熱海の小山

晝は午の小窓のほとり
羽の色彩まばゆきまでの
美るはしき姿の小鳥
くしき音に一とこゑ鳴きて
むらさきの氣はたちまよひ
唇の紅色あせゆきぬ、
いたづらの梅の香、あはれ
としわかき醫士か臨終。
ろの夕べ艮のろら
燦爛やけき紫金の、光
あかき星輝き初めぬ。
血に伏してなくに痩せたる
むねのへにやわ手ふれては
ろの痛み去らむのせめを
れへし身ゑ運命つたなく
人の世の病みにたをれぬ。

たをれたる其子されども
天にうけし仁術のほかに
汚れ、罪なきものなりし、
されば今御空はるけく
かざりなき光に映ゐて
人の子が世の夜な〳〵を
醫術もて上帝につかへぬ。

慰籍の紫金のいろよ
風あらき氷洋のはて
さては來む限なき末來
水黑く月なきゆふべ
人の子がつたなき性を
いたつきに泣かんのをりや
れとろへの開くに堪ゐぬ
瞳あげてなれを見むとき
ろのあきき光に醉ふて

胸の痛み、心のもだゐ
すみやかにわすれ去るべし。
よしろの子つひに癒ゐずも
ひんがしの御空の崇聖く
慰安らけき星の世ありと
ほゝゑみの光をしたひ
たゞあまき永眠につかむ。

年わかき醫士が靈なる
慰籍の紫金の星よ
幸うすき人しあはれみ
この廣漠き世をとわに照れかし。

＊　＊　＊　＊　＊

Ein weiser Vater.

(Beim Abschied),,.....Mein Sohn, wenn Du weisst, was Du willst, und nur das willst, was Du kannst, and kannst, was Du willst, und weisst, dass Du kannst, was Du willst —— dann wirst Du ein ganzer Mann!"

Ersparung.

„Wo ist denn Ihr Sohn, der Student?"——„ Der schläft noch!"——„Was? Jetzt noch um ein Uhr Mittags?"——„ Um Gottes willen, lassen Sie Ihn lassen! So lange er schläft, kostet er nichts!„

* * *

* * * *

會報

○叙任及辭令

石川縣金澤病院醫員　白井精一

月俸金參拾圓給與

石川縣金澤病院醫員ヲ命ス　山田義忠

月俸金貳拾五圓給與

（三月六日、石川縣）

收入官吏ヲ免ス　書記　森川正名

物品會計官吏ヲ免ス　書記　森川正名

會計主任ヲ命ス　書記　永山一昌

收入官吏ヲ命ス　書記　永山一昌

物品會計官吏ヲ命ス　書記　永山一昌

（三月七日、本校）

分教場各所用小使諸所門衛所通常用備品監守及消耗品取扱主任ヲ命ス　書記　永山一昌

（三月八日、本校）

各通　眞柄佐一郎　宮井勇

石川縣金澤病院醫員ヲ命ス
月俸金貳拾圓給與
（三月十一日、石川縣）

鑛毒調査委員被仰付
（三月十七日、內閣）

依願囑託ヲ解ク
石川縣金澤病院調劑所長囑託　高山　基重

石川縣金澤病院調劑所長ヲ囑託ス
金澤醫學專門學校教授　櫻井小平太
年手當金百五拾圓下賜
（三月十七日、石川縣）

中央衛生會委員被仰付
（三月十九日、內閣）

任陸軍三等軍醫
吉川　砥直
任陸軍三等軍醫
深美貞之助
（三月二十五日、內閣）

藥學科第三年生來四月一日出發修學旅行ニ付出張ヲ命ス
（三月二十五日、本校）

任陸軍三等軍醫
（三月二十九日、內閣）

補步兵第十九聯隊附
補步兵第三十五聯隊附
（三月二十九日、陸軍省）

依願囑託ヲ解ク
石川縣立農學校醫　小林　文泰
（三月二十九日、石川縣）

石川縣河北郡津幡高等男兒小學校醫　大屋　保治
石川縣河北郡川尻尋常小學校醫兼務ヲ囑託ス
年手當金拾貳圓給與
（三月三十日、石川縣）

石川縣立第二中學校醫ヲ囑託ス
年手當金六拾圓給與
（三月三十一日、石川縣）

叙正六位
叙正八位
叙正八位
（三月三十一日、宮內省）

免兼官
金澤醫學專門學校教授兼第四高等學校教授　湯目　隆績
本俸五級俸下賜
（三月三十一日、內閣）
東京帝國大學醫科大學助教授　高山　正雄

八級俸下賜　金澤醫學專門學校教授　村上　庄太
八級俸下賜　金澤醫學專門學校教授　上田　計二
免兼官　第四高等學校兼金澤醫學專門學校書記　吉村　政行
金澤醫學專門學校兼第四高等學校書記　楠　正可
免本官專任第四高等學校書記
（三月三十一日、文部省）
事務ノ都合ニ依リ職務ヲ免ス　警察醫　關屋林之助
衛生巡視員ヲ命ス　關屋林之助
月俸金五拾圓給與
（三月三十一日、石川縣）
分教場教務ニ關スル事務取扱ヲ囑託ス　楠　正可
休職書記　森川　正名
歳入歳出外現金出納官吏ヲ免ス　書記　永山　一昌
歳入歳出外現金出納官吏ヲ命ス　教授　櫻井小平太
愛知三重両縣下ヘ出張ヲ命ス　教授　佐々木　達
各通　教授　村上　庄太
學術上取調ノ爲上京ヲ命ス　書記　永山　一昌
上京ヲ命ス
（四月一日、本校）

金澤醫學專門學校教授兼第四高等學校教授　磯田　正謙
任第四高等學校教授兼金澤醫學專門學校教授
（四月一日、內閣）
第四高等學校教授　磯田　正謙
年俸五百四拾圓下賜
（四月一日、文部省）
石川縣金澤病院調劑所長囑託　櫻井小平太
御用有之京都府ヘ出張ヲ命ス
石川縣金澤病院醫員　三木　三郎
御用有之上京ヲ命ス
石川縣金澤病院長兼內科第二部長囑託　佐々木　達
年手當金六百圓下賜
石川縣金澤病院外科第一部長囑託　木村　孝藏
各
石川縣金澤病院外科第二部長囑託　下平　用彩
石川縣金澤病院婦人科產科部長囑託　小川　勝陳
通
石川縣金澤病院眼科部長囑託　高安　右人
年手當金四百圓下賜
（四月一日、石川縣）
歩兵第一聯隊附陸軍一等軍醫　村田　醇
免本職補東京衛戍病院附
歩兵第三十八聯隊附陸軍一等軍醫　鶴見金十郎
免本職補歩兵第七聯隊附
（四月九日、陸軍省）

任陸軍三等軍醫　早瀨　三求
任陸軍三等軍醫　佐伯　亮齊
任陸軍三等藥劑官　高多　久正
（四月十六日、內閣）
補工兵第十二大隊附　陸軍三等軍醫　早瀨　三求
補步兵第五聯隊附　陸軍三等軍醫　佐伯　亮齊
補小倉衛戍病院附　陸軍三等藥劑官　高多　久正
（四月十六日、陸軍省）
石川縣鹿島郡余喜尋常高等小學校醫　武田　粂藏
石川縣鹿島郡二宮尋常高等小學校醫兼務ヲ囑託ス
年手當金拾參圓給與
石川縣鹿島郡在江尋常小學校醫兼務ヲ囑託ス
年手當金七圓給與
（四月十九日、石川縣）
免須磨乘組補佐世保海兵團附　海軍中軍醫　鹽谷　義一
（四月二十二日、海軍省）
兵庫縣ヘ出張ヲ命ス　內務技師　野田　忠廣
（四月二十三日、內務省）
石川縣能美郡芦城尋常高等小學校醫　勝木　直吉
年手當金參拾圓給與
（四月九日、石川縣）

石川縣能美郡串尋常小學校醫　山田金一郎
年手當金六圓給與
（四月十日、石川縣）
石川縣金澤病院外科第一部長囑託　木村　孝藏
御用有之東京京都大坂ノ三府ヘ出張ヲ命ス
（五月三日、石川縣）
第四高等學校長兼第四高等學校教授　北條　時敬
任廣島高等師範學校長敘高等官三等
（五月十二日、內閣）
二級俸下賜　廣島高等師範學校長　北條　時敬
（五月十二日、文部省）
三級俸下賜　金澤醫學專門學校長　高安　右人
（五月二十三日、文部省）

○會員動靜

▲中島正泰氏　特別會員たる同氏は醫務上の爲め四月十七日出校翌十八日歸鄉せらる

▲中西政太郎氏　特別會員たる同氏は曩に一年志願兵として入營の處滿期除隊の上三月より京都醫科大學助手を拜命し生理學教室に勤務せらる

▲長谷川清一氏　特別會員たる同氏は開業の都合上先般富山縣婦負郡千里村大字上井澤村へ轉居せられたり

▲佐々木教授　は三月十八日より同月三十一日迄院務を帶び京坂地方より長崎地方へ出張せられ四月一日よりは第一回聯合醫學會へ出向せられ仝月七日歸校せらる

▲木村教授　は聯合醫學會へ出席の爲め三月二十九日出發四月七日歸校せらる

▲石川教授　も聯合醫學會へ出席の爲め三月三十一日出發四月八日歸校せらる

▲櫻井教授　は院務を帶び四月一日より上京せられ仝月七日歸校せらる

▲村上教授　は學術上取調の爲め四月一日より上京せられ聯合醫學會へも臨席せられ仝月十一日歸校せらる

▲梶川藏重氏　特別會員たる同氏は久しく伊豫松山病院に勤務の處三月十五日辭職せられたり聞く氏は鄉里に於て開業せらるゝ筈なりと

▲新谷信吉小倉加一郎の両氏　特別會員たる両氏は豫て傳染病研究所へ入所の處三月二十五日卒業せられたり

▲森川修氏　特別會員たる同氏は石川縣河北郡長の推薦に依り先般傳染病研究所へ入所せられたり

▲松王數男氏　特別會員たる同氏は香港政廳の招聘に依り同地に於て發生せるペスト病患者治療擔任の爲め三月三十日横濱解纜の信濃丸にて出發せられたり

▲駒井定哉氏　特別會員たる同氏は先般陸軍三等軍醫に任せられ敦賀歩兵第十九聯隊附となり四月六日同隊へ赴任せられたり

▲高柳元六郎氏　石川縣金澤甲種醫學校卒業生たる同氏は今般本會會員となられたり

▲高辻喜作氏　金澤醫學校を卒業せられたる同氏も今般本會々員となられたり

▲古丸藤三郎氏　石川縣金澤甲種醫學校を卒業せられたる同氏は今般本會に入會せられたり

▲佐伯亮齊氏　特別會員たる同氏は先般陸軍三等軍醫に任せられ青森歩兵第五聯隊へ赴任せられたり

▲高多久正氏　特別會員たる同氏は先般陸軍三等藥劑官に任せられ小倉衛戍病院へ赴任せられたり

▲崎達郎及藤井溫良氏　特別會員たる兩氏は去る二十七日十全會講話大會に列席せられ翌二十八日醫務上取調の爲め金澤病院及本校へ出頭せられ翌二十九日歸鄉せらる

▲高安教授　十全會長たる同氏は本月十日校長會議の爲め上京せられ二十八日歸校せらる

▲輕部修一氏　特別會員たる同氏は福井縣大野郡永平寺大法要中福井病院より出張所に出張中せられたり

▲特別會員米澤啓君逝矣　盛春の陽氣宇宙に滿つるのとき一片の悲報遠く熱海より到れり、曰く米澤啓君遂に逝けりと、此報に接したるの時、吾人は一種の感に擊たれて茫然數時、胸中無言の嗚呼を連呼し爾來深く胸中幾片の愁雲來往して遂に永く春の自然に同化し能はざるなり、嗚呼造物の司何の故を以て而かく頻繁青春の偉物を拉し去る

君は中越の出、夙に校中秀大の格有爲の材として其名嘖々、事起るや能く校生の間に立ちて斡旋の局に當り其効今に沒す可からざるもの多し、去秋業成り師の愛顧と朋の屬望とを擔ふて校を去られしより、舊痾再發暫く熱海に靜養せられしが今や遂に万事休矣、あわれ猶ほ髣髴として吾人の眼邊に去らざる一片稜々たる氣骨を包みし磊落の風彩は今幽界の耶邊に逍遥する、嗚呼

○第廿四回講話會

一月廿五日午後六時卅分より內科講堂に於て開會す、先づ佐々木部長登壇、開口一番曰く、本日の會合は新年第一着の會なる故如何に盛會ならんと豫想したりしも降雪甚しく且つ又寒稽古中の爲め出席者の少きを怨ぜられ且つ爾後時間勵行を誓はれたり

第一席、精神とは何ぞ、猪飼公臣君。古來よりの精神に就ての諸說を引用し且つ解釋し主に心理的觀察を論ぜら

れたり、

第二席、多發性皮膚肉腫に就て、北川健三君。Sarcomatosis 發生の原因より君か實驗により得たる發生症狀顯微鏡的所見及び術後の經過等累々數千言述べられたり

第三席、精力の集注を論じて才士に望む、越田信吉君。抑も物の發育事の發達する所には機能分掌起る事より論して現今社會に實用的の人物は淺表にして諸般に亘らんよりは寧ろ深く一事に通曉するの優れるを說き才士必竟多能の不可なる事を得意の語調を以て論ぜられたり

第四席、鼻咽頭の疾病に就て、米村吉太郎君。鼻疾病と腦疾病との關係を論せられ君か實驗上當市々立小學校に於て生徒の鼻汁分泌量と學科成績の關係及び石川縣女學校生徒鼻咽頭の疾病と學科成績との關係を統計を示して懇切に說かれ終りに腦髓鼻腔副鼻腔の解剖生理的作用及疾病的作用に論及せられたり

第五席、ヘミン結晶に就て、村上教授。法醫學上血痕判定に於ける必要より該結晶の製法を詳述せられる

第六席、十九世紀に於ける顯微鏡學の進步、金子教授。顯微鏡の發明より學理社會に應用せらるゝに至りし顚末及斯學の發達を論せらる

午後十時閉會、會者四十

○第廿五回講話會

三月一日午後六時三十分より內科講堂に於て開會す

第一席、脫糞法、木村教授。脫糞法に就て學理的實驗的に詳細論及せられ且治療上必要なることを說かれたり

第二席、Biogenose Lehre. 金子教授。Theorie der Biogenese より往古及現今學者の唱ふる遺傳說を論じ該組織及び臟器發生上の關係を說明せらる

第三席、右盲腸ヘルニアの一例、東良平君。盲腸ヘルニアの發生上より論し來りて氏の實驗せる嵌頓せし右盲腸ヘルニアの一例に就て其症候、手術中の所見及び豫後を定むるを何れの患者にも必要なることを說かれたり、

第四席、兄弟の說(續き)、小川教授。都合により本演題は次回に述べらるることゝし分娩十ヶ月を經過せし婦人よ

り胎兒頭蓋骨の腐骨を摘出せし事を報告せられ併て現今の產婆及將來刀圭の士を訓戒せられたり

八時五十分部長立ちて閉會の辭を述べられ同時に故校外特別會員永井源吾氏及通常會員小田隆甫氏の爲め吊意を表せんとし一同に起立を促かされ、次て四月二十七日を期して講話部總會を開く事を報告せられ閉會す

○十全會講話部第一回總會

殘葩履裡に印し新綠漸く濃ならんとするの時本會講話部第一回總會は吾人の耳朶にさゝやきぬ

當日役員は左の如し

會長　木村教授　會場掛長　松田助教授
部長　佐々木教授　同　委員　土田久三郎
庶務掛長　石川教授　同　同　加藤　寛
同　委員　高柳書記　同　同　池田　菱吉
同　同　宮越常次郎　同　同　水上　湊
同　同　政山龍雄　同　同　林　榮次郎
會計掛長　松田助教授　受附掛長　福見助教授
同　委員　片岡　正　同　委員　小林　孝一
同　同　宮川　一雄　同　同　並河　正雄
接待掛長　湯目教授　同　同　津田直次郎
同　委員　丸山六郎　同　同　宮川　一雄
同　同　石田伍佐　以上
同　同　伊藤顯德
同　同　築山秀雄

四月廿七日(日曜日)午前八時より金澤市會議事堂に於て開かる、先づ佐々木部長登壇開會の辭を述べられ次で第一席、𡿨、中島德藏君。𡿨に就て組織的、生理的に論ぜらる唯恨む表尸一道の觀察にして哲理的、文學的觀察に論ぜざりしを

第二席、Zwei Haüptforderüng bei Einleiüngen des freundespracheh Unterrichts, ウォールハフート講師。

他國語教授法の弊害を擧げ之に對して教導責任者及び受教者に向ひ二大要點を懇切に演述せられ、次で

第三席、尿道結石の一例、深美貞之助君。君が實驗せら

れたる稀有なる尿道結石に就て報告せられ次て木村教授は稀なる膀胱及尿道結石を供覽せらる

第四席、Antony's Rede, 土田久三郎君。君か得意の獨乙語を以て羅馬第二三頭政治（Secundäre Triumviri）の一傑 Antonius が Caius Julius Caesar の死を悼し快辯を振ひて人民を激昂せしめし氣慨を想起せしめき

第五席、急性限局性皮膚水腫の一例、下平教授。本病一般の症狀經過より同教授の實驗せられし患者に就て詳細に說明せられ且患者の寫眞を示さる

第六席、非科學主上主義、猪飼史郎君。人の萬物の靈長たる所以は自覺なる「ガイスト」存するに由る事より科學主上主義を以て自覺を得さるものとして論及せられ及び內的自覺外的自覺に就て說明せらる

第七席、膽石に就て、村上教授。膽石發生の原因より說き起して歐州及日本に於ける統計數を示し我日本にては少數なるも北陸地方に於ては比較的稀有症ならざることを同教授の明治廿八年五月より本年四月に至る病体解剖數二百十四人中十四人（男六、女八）即ち六、五四二%あるを以て証せられたり。

時恰も零時を過くる二十分部長休憩を告け來賓其他へ午餐の饗應あり午後一時又開會。

第八席、原發性腎臟肉腫の一例、小西俊三君。君か病理教室に於て實驗せられしものにして腫瘍の形狀大小光澤及斷面の肉眼的所見より切片の顯微鏡的所見に至るまで詳細に演せらる。

第九席、デジェリン、ランゾヂー氏筋萎縮症患者の供覽、眞柄佐一郎君。本症は進行性筋肉營養障害より起るものにして年齡及び原因上の關係侵さるゝ筋屬及其鏡檢上の所見より本病の歷史及現症の一汎より大西教授の「クリニック」に於て實驗せられし患者に就て說明せらる

第十席、近世臨床醫學界、佐々木教授、內科外科の發達上よりの關係を論し延ひて兩科合併說を唱へらる

第十一席、橫斷性骨髓炎患者及痙攣性脊髓痲痹症患者の供覽。大西教授。同患者に就て學理上より實地上より詳

細に說明せられ。

第十二席、胃全摘出術の一例、北川健三君。先つ氏の調査せし既往十年間のリテラツールを述べ次て實驗せられたる患者の病歷及手術の要を論し終りにろの肉眼的顯微鏡的標本を供覽せらる

第十三席、體力と腦力とに就て、米村吉太郎君。學生に於ける身長と腦力と學科成績との統計表を作りて七乃至十一歳のもの四百八十五人に於て身長の多きに從ひて學科成績即腦力の良にして十二乃至十七歳のもの五百五十九人の統計に於ても亦身長短きよ從ひて學科成績不良なるより考ふれば身長と腦力とは互に相並行するものなりと述べられたり

第十四席、Lieberkühn'sche Drüse. 金子教授。該腺に就て組織的に詳細演せられ、次で

第十五席、再びドウラール、インフジオンよ就て、東良平君。從來君か實驗に於て〇、三%殺菌コカイン水にては其の 3-4 ccm を腰髓の 2-3, 3-4, 4-5 の間に注入すれば早きは三乃至五分遲きも十五分にて麻痺に陷り平均三十分長きは一時間半乃至二時間持續すれども他の副作用多きを以て〇、一%のものを使用するの優れることを報告せられたり

第十六席、Psoriasis. 山田孝太郎君。Psoriasis の種類症狀好發部位より經過原因療法を說き同氏實驗の統計上に於ては少なからざる皮膚病にして十五歳以上四十歳以下に於て發生し十五歳乃至二十歳に於ては二二、四%五十歳以上にては二、七%を占む殊に女子よりも男子に多く來ることを述べられたり

第十七席、Bactericide Wirkung. 大西教授。滔々流水の如き語調を以て Bactericide Wirkung の必要より血液中に於ける Complemente Immun-Körper との關係に就て論ぜられ此二者の相待つて Bactericide Wirkung 成立することを述べらる

第十八席、炎性機の一療法、木村教授。同博士は四十五人の患者の炎症に一乃至二%以下の Jodaethler を注射し

て別に患者に苦悶を與へずして炎症を治し且つ解熱の効あり營養を改良し急性炎症の疼痛を速に緩解し結核の壓痛部に注入すれば其の疼痛を消散する等の効あり要するに發生期の瓦斯狀態に於ける「ヨード」が体内に廣かりたる后ちに組織に沈着せしめざるべからすと論ぜり

時正に午後六時木村教授登壇閉會の辞を述べらる。當日は數十の顯微鏡標本幷びに臓器標本を縱覽に供せらる。カイゼルリング氏法により貯藏したる標本（村上教授）、腦脊髓並びに血液病標本（大西教授）、Lieberkühn'sche Drüse 標本（金子教授）等あり。當日來賓十數名、特別會員六十余名、通常會員三百を數へ頗る盛會なりき。

尙閉會に臨み木村會長は左の如く演述せられたり

私は十全會々長として一言謝意を表し度存します來賓諸君は此雨天なるにも拘はらず御來車下され又卒業生諸君は遠路御來會下されたる向き多く且つ本會講話部長を始め委員諸君は勿論全會員諸君の熱心によりまして斯く盛會に了りましたは深く謝する處て御座ります開業醫師諸君の如きは御多忙中御出席下さいまして本會の盛況を添へました之れ亦謝する處てムります又續續有益なる御演舌のありし方々には厚く其勞を謝さねはならぬ事と存します熟々本日の實況を視察致しますれば演舌は自己の新按に出るあり或は有益なる又は稀有なる實驗談あり或は貴重なる標本の供覽說明あるて之れを西洋に於ける斯道の會に比するも敢て遜色なき事と考へます然れとも彼地に於ては總て研究と云ふ事と瞬時も學者の腦裏を脫する事なく學者は無我夢中他事を顧みす學事に熱心し即ち Die Professoren sind zerstreut なる語あり從つて學者輩出し學會盛んなり伯林醫學會の如きヴェルヒョー先生の會頭の下に學會は毎週開かれ然も毎會盛んでありまする故に一回の會合は其狀況彼地のものに匹敵するも會合の度數に於ては未だ大差あるを免れませぬ之れ敢て金澤を以て伯林に比するが爲のみにあらす故に我々は我國光を發揚する一端としても益々研究の事に熱中し斯道の發達を謀ら

さる可からさる事と存します故に次會の總會に於てハ勿論平素の例會に於ても會員諸君は有益なる實驗或は事の大小に拘はらす新按を發見せられ續々御演舌あるを希望致します又本日の來賓諸君開業醫諸君は例會に於ても本日の如く御來會下さるれは之れ獨り本會の光榮なるのみならず亦大に本會發達の奬勵となることゝ存します又正會員諸君は我校を出れば直に社會の怒濤を航せねはなりませぬ故ゑ修學の餘暇常に茲に意を止められたく自分の意見を吐露し之を世に公にすると活ける言語を以て演舌するか或は之を紙上に寫すにありまして之れには諸君は本會を利用し大に得る處ある事と存します敢て將來の希望を一言致します

○獨逸語學會

嘗て久しく我會員中に企畫せられたる本會は愈〳〵去三月三日午後六時より其第一回の會を金澤病院内科教場に於て開きたり來會せるもの本校教官、學生、來賓にはユンケル、ウォルフハール等の諸氏あり頗る盛會なりき尚當日獨逸語にて演舌せられたる諸君は次の如し

1) Eröffnungsrede. Herr Prof. Dr. Takayasŭ,
2) Eröffnungsrede. Herr Prof. Yŭnome,
3) Virchow's wissenschaftliche Bedeŭtŭng. Herr Kataoka,
4) Doctor Allwissend. Herr Tsŭchida
5) Die Reise nach Eŭropa. Herr Prof. Dr. Kimŭra,
6) Man mŭss immer fleissig ŭnd eifrig sein. Herr Horii,
7) Ein Arzt ŭnd Patient. Herr Nodake,
8) Ŭber das Sprachstŭdiŭm. Herr Prof. Jŭnker.

○劍道紅白勝負

二月廿三日本校濟々堂に於て擧行せり。來會者高安會長、村上部長、松田、宮川の両助教授及師範石川龍三氏を初とし無慮二百名、近來の盛會たり。番粗左の如し。

紅軍　白軍

永江直之　石川壽人
福岡喜洋　藤原敏夫
小原德太郎　松村魁
土屋米二　島誠郁
月原秀範　須田嘉三郎
中村起吾老　太田友一
裏地寛一　笹田順二
清水齊雄　谷澤一郎
福岡捨雄　多賀貞二
小幡學雄　清水秀夫
中村辰八　竹森秀一
淺利義治　根守政記
井上慶吉　伊之宮長民
渡邊仲四郎　高崎二郎
水上俊三　濱地藤太郎
大櫛秀松　江崎恒人
尾崎平吉　七五三龜吉
山田伊之助　高桑勇次郎
佐藤軒二　天野重春
花岡佐太郎
本濃觀通

○武術寒稽古皆勤者

本年一月十日より擧行したる武術寒稽古皆勤者氏名左の如し

△劍道皆勤者氏名

根守　政記　丸山　六郎　七五三龜吉
江崎　恒人　大田　友一　石川　壽人
高崎　二郎　井上　慶次　高桑勇次郎
石橋　四郎　發田　順三　小幡　學雄
伊之宮長民　齊藤　賢德　島　誠都
多賀　貞二　清水　秀夫　渡邊仲四郎
森　公平　淺利　義治　中村　辰八
月原　秀範　春日　健次　福岡　捨雄
濱地藤太郎　花岡佐太郎　大櫛　秀松
小原德大郎　矢野　重春　武森　秀一
水上　俊三

△柔道皆勤者氏名

清水　秀夫　林　良吉　越田　信吉
太田　友一　井上　隼雄　中村　辰八
細田　榮　堀田　圭三　根守　政記
桑島　貫一　鳥山　正影　小町　環

和氣　二郎　江崎　恒人　石田　陀人
池田　菱吉　橘　三　丸　諸橋嘉久治
原　清　八　片岡　正　手塚　泰
林　篤　三井　正道　小原　芳雄
山田伊之助　森田　信雄　三股　梅吉
田村圓四郎　佐藤　軒二　發田　順三
長井　運男　朝倉　重敏　渡邊仲四郎
井上　慶二　須藤庄太郎　井上　元
淺利　義治　渡邊　勝治　大島　義治
杉田治十郎　濱地藤太郎　高島一二三
岡田　甚美　以上

○本校紀念式

五月十一日は金澤醫學專門學校の紀念日に當れるを以て同日午前第八時より濟々堂に於て紀念式を擧げらる、先つ高安校長の式辭及職員總代として櫻井教授の祝辭、生徒總代として土田久三郎氏の祝辭あり次で高安校長紀念物品寄附の報告了りて　両陛下の萬歳及金澤醫學專門學校の萬歳を三唱して式を閉じたり

式　辭

明治三十四年四月一日第四高等學校ヨリ醫學部ヲ分離シ之ヲ金澤醫學專門學校ト改稱シ文部省直轄ノ全ク獨立ノ學校トナレリ而シテ同年五月十一日

天　皇

皇　后

両陛下之　御眞影ヲ本校ニ下賜セラル　聖恩ノ優渥ナル實ニ感泣ニ堪ヘザルナリ是レ本校ノ創立ハ四月一日ニ在リト雖ヒ本日ヲ以テ紀念日ト定メタル所以ナリ顧ミレハ本校ノ淵源既ニ遠ク歳月ヲ閱スル事茲ニ十有四年其間種々ノ變遷ヲ受ケ漸次進歩改善シ漸ク今日ノ域ニ達ス授業ノ方法内外ノ設備等尚ホ完全ヲ欠ク所尠カラズト雖ヒ之ヲ初年ニ比スレバ實ニ數倍ノ進歩ヲ來セリ之レ　勅語ノ聖旨ニ基キ職員諸君ノ拮据黽勉ト生徒諸子ノ奮勵ニ因ラズンバアラズ自今益々心ヲ一ニシテ共ニ力ヲ吾校ニ盡サレンコヲ希望シテ止マズ今日本校第一回紀念日ニ際シ其式典ヲ擧ルニ當リ聊カ希望ヲ述ベ以テ其式辭ト爲セリ

明治三十五年五月十一日

金澤醫學專門學校長　從五位勳六等　高安右人

祝詞

本日ハ本校創設後滿一ケ年ヲ經過シタル當日ニシテ即チ本校第一回ノ紀念祝日ナリ依テ校長始メ職員生徒一堂ニ會シテ此盛典ヲ擧グルハ小官等ノ最モ愉快トスル所ナリ然リ而シテ此愉快ヲ覺ユルノ念ヲシテ年一年ニ其度ヲ高カラシメザル可カラザルモノアラン是レ他ナシ本校ハ校舍ヲ始メトシテ未タ以テ假設的ノモノ多シ故ニ其等ヲシテ完全ノ域ニ進マシメ而シテ後本日ノ如キ祝典ヲ行ヒタランニハ尚ホ一層ノ愉快ナランカ之レ小官等職員タルモノヽ最モ勤ムベキ所ナラン

又本校ハ是ヲ人ニ譬フレハ生レテ僅ニ一歲ノ小兒ナリト雖モ曾テ第四高等學校テウ健全ナル母ノ胎內ニ在リテ充分ナル發育ヲ遂ゲ而メ後所謂分娩ノ期節到來出生シタルヲ以テ其体質ノ健全ナル精神ノ活潑ナル將來大器ヲ成スベキノ望アル蓋シ偶然ニ非ザルナリ然レ𪜈如何ニ天然怜悧ノ小兒ト雖モ之レガ父母ノ任ニ當レル職員タル者ニメ保育ノ宜キヲ得ザル𪜈ハ兒ガ將來ノ發達上ニ障害ヲ釀スヿ無キヲ保セザラン是レ亦小官等職員タルモノヽ深ク注意ヲ要スベキ點ナラン聊カ祝詞ヲ述ブルニ際シテ併テ所感ヲ附記ス

明治三十五年五月十一日

金澤醫學專門學校職員惣代

金澤醫學專門學校教授　正六位勳六等　櫻井小平太

祝詞

我校ノ獨立改稱セラレシヨリ啻ニ形式上ノミナラズ其內容ニ於テモ日進月歩漸ク　勅語ノ　聖旨ニ庶幾カラントシテ既ニ一年ヲ經タルノ今日第一回ノ紀念日ニ遭遇ス吾等學生ノ雀躍ニ堪エザル所ヤ勿論ナリ此幸福ナル今日アル固ヨリ優渥ナル　主上ノ恩澤ニ因ルト雖モ亦一ハ以テ熱心ナル教授諸氏ノ勉勵薫陶ノ致ス所ナラ

ズンバアラズ吾輩ハ深ク其厚恩ニ感シ粉骨碎心以テ之ニ報ヒ我校ノ美風ヲ愈々發揚スルノ覺悟ナカル可カラザルナリ今日和氣靄々タル、希望ノ光輝々タルノ日ニ溢レ出ル欣喜ノ情禁スル能ハス一言蕪辭ヲ連子テ祝辭ニ代フルト云爾

明治三十五年五月十一日

金澤醫學專門學校生徒總代　土田久三郎

右式終りて校長より物品寄附ゟ付左の報告ありたり

本日ノ紀念日ニ寄附サレマシタ物品ヲ報告致シマス

一職員ヨリ　慢幕　壹張

一醫學科第四年生一同及藥學科第三年生一同ヨリ　校旗　壹旒

デアリマス就テハ此寄附ノ事ニ就キテ聊カ注意ヲ致シテ置キマス本校獨立前ニ於キマシテハ毎年四月十八日ノ紀念日ヲトシマシテ職員及學生諸君カ在校ノ紀念トシテ樹木ヲ寄附サレ校ノ庭内ニ種樹ヲナシ來リマシタガ本校獨立シテヨリ紀念日モ本日ト定マリマシテ從來ノ慣例ニ依リ種樹ヲナス筈デアリマスガ御承知ノ如ク本校ノ現狀ニ於キマシテハ種樹ヲナス餘地ガアリマセンカラ殘念ナガラ本校新築迄ハ種樹ヲ見合スコトニ致シマス依テ本校新築ノ曉迄ハ樹木ニ換ユルニ永遠紀念トナルヘキ物品ヲ寄附サレンコトヲ茲ニ御一同ヘ希望致シマス就テハ寄附ノ方法ハ自今職員ニ於キマシテハ新任ノ方一同ヨリ學生ニ於キマシテハ毎年卒業サルヘキ年級ニ在學ノ諸君即チ醫學科第四年藥學科第三年生ヨリ寄附ノコトニ望ミマス

幸ニ本日學生諸君ヨリ寄附サレマシタ校旗ハ取敢ズ校門ニ交叉致シマシタ實ニ本官モ滿足ニ思ヒマス職員ヨリノ慢幕ハ未タ出來致サヾルヲ以テ他日御覽ニ入レルコトニ致シマス

○劍道及柔道進級證附與

五月十一日紀念式後に於て劍道及柔道進級証書を授與せられたり其人名左の如し

△劍道進級者

進三級
須永江直
貝瑋之
太郎

進四級
福水谷高石松
岡上澤峰川村
享
喜俊一一壽
祥三郎郎人魁

△柔道進級者

進二級
土小町
田久三環
郎

進四級
森田須吉池林奈井島桑月林三石田
田村藤田田　良上山島原　井
圓庄
信四太東菱良八　正貫秀正正他
雄郎郎秀吉吉郎元影一範雄道人

進五級
高清中須裏中清根福齊渡井多春
崎水村田地村水守岡藤邊上賀日
嘉起仲
二齊辰三寛吾秀政捨賢四慶貞他
郎雄八郎一老夫記雄德郎治二次

進三級
藤原永江直
夫敏之

進四級
越片清楠太中井根佐福山三高伊
田岡水　田村上守藤岡田股田藤
伊
信　秀正友辰隼政軒喜三梅重顯
吉正夫之一八雄記二祥助吉忠德

○體格檢査成績　去る四月二十一、二十二、二十三日の三日を以て施行せられたる當校生徒身體檢査の結果は左の如くなりと

醫學科

學級	受驗者數	體格	同上別
第四年	四三	強中薄 健等弱	二 一二五 二六
第三年	四八	強中薄 健等弱	二 二四 二三
第二年	九五	強中薄 健等弱	五 三四 二九
第一年	一〇一	強中薄 健等弱	三 一四 六四
計	二八七	強中薄 健等弱	一 三四 一四二

藥學科

學級	受驗者數	體格		同上別
第三年	六	強	健	三
		中	等	三
		薄	弱	〇
第二年	六	強	健	三
		中	等	三
		薄	弱	〇
第一年	七	強	健	一
		中	等	六
		薄	弱	〇
計	一九	強	健	一
		中	等	七
		薄	弱	二
				〇
合計	三〇六	強	健	一
		中	等	四
		薄	弱	一
				一
				五
				一
				三
				二

○醫學科第四年級會　五月七日水曜日午後第二時半より濟々堂に於て四年生第三回級會を開きたり今回は同年生の終會の事とて高安校長を始め佐々木級長其外各教授出席せられ高安校長、佐々木級長、小川教授、下平教授、島誠郁君等の談話あり非常の盛會にて午後五時十二分散會せられたりと

○校旗寄附　本校分離前に於ける學校紀念日には各有志より樹木を寄附し校庭に種樹をなし來りたるも本校分離後は校庭狹隘にして種樹の餘地なきにより本校新築迄は種樹に換ふるに將來永遠紀念として存する物品を寄附することに醫學科第四年生一同及藥學科第三年生一同の申合一決して愈々本年第一回の紀念日に用ゆるも差支なき校旗一旒を寄附せられたり誠に美擧といゆへし

○山碕幹氏の撮影寄送　先般歐洲留學の途に就かれたる同氏より生徒一同へ紀念として自己の寫眞一葉を寄送せられたり

○故小田隆君紀念書寄附　同君在學紀念の爲め本市在住の愛知縣學友會々員より本會へ左の書籍を寄贈せられたり

一　小池正直 森林太郎合著衛生新編　一部

一　石川清忠著實用法醫學　一部

一　ウエーニヒ氏獨乙辭書　一部

○義捐　福井市の大火に付類燒被害者恤救として先き頃金澤本校及金澤病院職員ヨリ金貳拾貳圓貳拾九錢を義捐せられたり

○新著寄附　東京本郷三河屋書店より平塚、宍戸、塚本共著の新撰和獨字彙（第十二版）一部を本校へ寄贈せられたり

○入退會者

△入會者

特別會員　石川縣鳳至郡櫛比村字門前一九八三開業　德木千秋

仝　上　富山縣伏木町大字本町五九開業正八位　高辻喜作

仝　上　臺灣基隆醫院長兼臺灣總督府海港檢疫官正七位　高柳元六郎

仝　上　金澤市新竪町三丁目一七開業　松井宣正

△退會者

通常會員　小野澤庄桂

＊　＊　＊　＊　＊

通信

○高松多齊氏の通信（松田委員宛）

（前略）十全會各役員先生の御盡力により日に月に益々隆盛に趣き會誌も面目を一新し實に悅敬存居候爾后共何分御盡力の程偏に奉願上候小生も本年一月以來私立病院新築に取懸り殆んど落成本月十四日頃には移轉開院の積りにて既に去月十九日道廳より認可に相成り申候故今後は益々勉强し諸先生方へ萬分の一なり共御報恩致度存候當地には四高出身は目下桑原慶太郎君と小生の二人にて實に心淋しく今少し增員したならばと常に思ひ居り候小川爲吉君は本道龜田郡尻岸內村々醫の處去月同郡小安村と申す處へ轉居に相成申候色々申上度事も有之候へ共目下工事等內外多忙故後より萬々申上候當地も餘程暖に相成りへ共昨日一昨日の如きは又々降雪寒暖計三十八度內外を示し申候云々（後略）

○橋本喜久三氏の通信（松田委員宛）

（前略）一月廿五日は北海道未曾有の寒氣にて零點下四十一度を示し萬事不便を感じ申候頃日は大に温暖となり

一回蘇生の思ひをなせり生も本年は再び擔架卒教育教官を命ぜられ日に繁忙を極め居候又去る一日よりは露國携帶天幕使用研究の爲め我大隊の札幌地方へ十三泊雪中行軍に隨行數回の露營は三回許は青森に劣らざる大吹雪に出會し地方新聞には青森の二の舞として一同行衞不明恰も全死せしが如くに傳へられ大に迷惑仕候も稍々困難の末一同無事去る十四日歸隊仕候（中略）嗚呼回顧すれは昨夏生は定例休暇歸省歸途青森に一日滯在し永井源吾君の官舍を訪問せしに折惡く他出不在にて妻君に面會し雜談に時を移し又愛兒をも一見し再來を約し歸宿せしに後刻永井君來訪せられ氣焰萬乘尙ほ本年も暑中休暇に再會を約し歸隊せられたりし然るに昨十二月雪中行軍に凍死の報に接し生の驚愕譬ふるにものなく恰も尙眼前に永井君を見る殊に永井君は生と同鄕加ふるに步兵第七聯隊見習醫官たりし時より交厚く送別時共に寫眞を交換したりし今は死前を表はし實に遺族に對しても何とも悔の申上樣もなき始末に御座候併し此死たる全國同胞の腦裡を刺擊し上政府に於ては戰死同樣の取扱に處せられたるは寔に名譽の事といゆべし云々（後略）

○山碕教授の通信

（四月十三日佛國マルセーユ港發、本校職員宛）

拜啓時下春陽の候各位倍御淸適奉謹賀候次に生儀五十餘日の航海も幸に無事相終り昨日當港に安着仕候間乍慮外御休神賜度候今日迄の旅行中格別異事も無之候も時々留守宅へ旅行記事相送り置候間御序の節御覽を願上候又十全會にも御不沙汰打過候何卒宜敷願上候

同行の舟岡醫學士コロンボ邊より膃窒扶斯を發し一時は非常に氣遣しも幸に良經過を取り回復期に向候も尙二三日間靜養を要候に付小生と長崎の小山氏と兩人にて保護し十五六日頃當地發伯林に可向と存候同地着は隨て十八日以後と可相成候今回の旅行中此一事困難を感し申候海上は常に平穩にて生の如き船の弱虫も稀に眩暈を感せしの外船病と稱すべき事も無之候先は上陸御報迄右申上候何れ伯林着後又々御報可仕候草々頓首

○佐伯亮齊氏の通信

（五月十日發十全會宛）

（前畧）在澤中は先生方の御庇眷を被り何によらず御教示を拜承仕候へしも今や遠國に至り四隣皆口に蜜あり而して腹に劍あり的の間に立ちて事を成すの時相談の本家を失ひ申候者から萬事に幼稚の小生には一層困難を相感じ申候困難を感じ申候夫れ丈け深く御鴻恩之程難忘候何卒今後益々御愛顧を賜り度候偖て小生義補步兵第五聯隊附と相成候につき四月二十二日金澤出發鄕里高岡市に三日間滯在仕り瀛車便にて上京仕り六日間の滯在中森田齊次

兒島亮吉三君の先輩及莫逆の友湯本四郎右衛間、久津木勝作の両氏に面會仕り久しぶりに開襟の談話を致し申候處士別れて三日ならは當に目を刮て相看る可しゑて氏等の學業益々進歩せられしには感服の外無御座候、五月一日在京諸氏に別を告け瀛笛一聲上野を出發仕り仙臺ゑ一泊松島絶景を賞し仝三日無事著青致候間乍他事御放念被下度候付ては一月二十三日歩兵第五聯隊雪中行軍遭難の際職務を完ふせんとして命を殞されたる先輩陸軍三等軍醫永井源吾殿の家族を見舞候處氏の母堂小生に生前の遺影を送られ候間之を再び御會に寄送致し同軍醫の名聲を不朽に傳へんと欲し申候

偖て當聯隊にては遭難者の死体捜索に忙殺致され居候毎日の熱心なる捜索隊は九名未發見の外凡て發見仕候只今小生は捜索隊派遣地なる安野木森と申候山中に建られある幕營舍に宿泊仕り醫務を執行罷在候が醫學を修めたる者とては一人も無く誠に徒然に不堪候此の幕舍は寫眞に有之候通り丈餘の積雪を穿堀して建築せる處なるも漸々暖和の候に向ひ候故只今にては僅に幕舍の附近に雪班處々に有之候樣に相成候へしも何分山中の事ゑ候へば嵐の強さと寒氣の劇烈なるゑは閉口仕候彼の露營地なる八甲山麓は今尚丈餘の積雪ゑて其内より死体發見仕候ゑても遭難當時の摸樣を追想可被致候此ゑ捜索隊の寫眞二葉故永井軍醫殿の寫眞一葉御郵送仕候間御領収被下度候云々

（編者曰く故永井軍醫の寫眞は逐て本誌に掲載すべし）

○藤岡勝治氏の通信（三月二日發小川教授宛）

（前略）歸郷以來研究の念は心頭を離れざるも寒郷習に師なく讀むに書なしと云ふ有樣にて其意はありながら遂々光陰を經過する爲休御憫笑被下度候加之世に田舍の開業醫程不規律に多忙なるものはあらざるべく候一寸往診するにも一里もしくは二里位の處にてゐれも大道坦々如砥底の便利なれば格別小地などは四方山嶽に圍まれ一路羊腸巨石磊塊たる嶮路故多くは山駕に震撼せられ眩暈を起し時としては溪谷ゑ陷るが如きことあるは實ゑ感服不致候故ゑ半日已上は斯の如き單調なる往診ゑ費し居候又地僻なる故文化浴からず宗教迷信傳染病隱蔽の弊は隨分盛に御座候身茲に住する已上は此等の弊をも打破せねばならず學校衛生のことにも從事せねばならず隔離病舍にも通勤せねばならず種痘や檢屍も打棄てゝは置かれず昨年夏の如きは數ヶ村の隔離病舍ゑ出勤し自宅の収容及び外來患者を診療し普通の往診ゑも從事致候爲め痛く健康を害し今以て快復不致隨分慾張りなる咄なれ共附近に同業者無之候故詮方無之候よりてをもふに開業醫に研究を強ゆるは難事にして且つ開業醫其の人の研究の念を抱くは

自ら揣らざるものと察し候人の精力なるものは無限にあらす鬼神に非ざる以上は開業醫は研究と職業と並行せしむること能はざるべく候畢竟開業醫は他の學者の研究を紹介すれは足ると存候然れ共紹介なるものも決して賤むへきものには之なかるべく候如何に苦心慘憺の餘に成りたるアルバイトも之を弘布する開業醫なくんば空しく地上に抛擲するゑ等しからんと存候今日の學生諸子が爲めに効名心に馳られて前后の分別もなく學者に成りたがるの觀あるは確に一弊と存候決して我田引水の論には無之と信じ候閑話休題田舍の開業醫に於て煩はしきは醫業外の仕事に着手せねばならざることあるに有之候田舍ゑ於ける醫師は其教育に於て比較的優等の位地に有之候されは他のなすことは齒牙くて默視するも能はざるもあるべく又他のものと敢て床上の置物視するが如きこともなかるべく候現に余の如きは昨年の村會議員の半數改撰に両派の爭を招きたるか故に其調停ゑ引張り出され又過般寺院と檀徒と紛議ありたるときも矢張り調停ゑ引張り出され候昨年冬居村の風儀甚だ面白からさるを認め候ゑつき小生は極力尽瘁の結果協同會といふを設け第一會員一人につき一口五錢宛貯蓄し一定年の后之を分配すること但し一人幾口を有するも妨げなし第二に產屋見舞、部屋見舞等の虛禮を廢すること第三米穀を一手に販賣し肥料を一手に購買すること第四凶荒に備ふるため各地主より一定の金米を醵出すること第五傳染病隱蔽をなさゞること第六男兒は必す高等小學を卒業せしむること第七一定の方法を設け小作を奬勵し且每年地主經費を負擔し豐年祭をなすこと其他數ヶ條を規定し制裁を設け着々實行致居候之等は醫業の餘暇行はざるべからさることゝ存候今日醫業の神聖は他の門外の俗物の爲に蹂躪せらるゝの觀あるのみならず醫師其人も自信力の欠乏せるため自己の地位の高きを忘れて同業軋轢の惡弊を釀成し或は患家の鼻息を覗ひためゑ倍々其品位を失墜するが如き狀あるは慨歎の極ゑ御座候とは申候ものゝ小生とても在澤の日ゑ比しては偏見固陋の弊ゑ陷りたる事と信じ居候耳ゑ聞く者は松嶺筆濤目ゑ見る者は青山白水交る者は田夫野翁のみゑ御座候へば志氣を消沈せざらんと欲するも得べからざる次第ゑ有之候功成り名遂け滿腔の經綸を披瀝したる後右の如き田舍ゑ餘生を送るも或は一興ゑ有之候へ共小生の如き年少氣鋭壯心尙消せざるを自信する輩ゑ在ては一人の胸襟を打開くべきたもなく徒ゑ青雲を望んで之ゑ擧づるの梯を作るを得ざる田舍ゑ蟄伏致候へば確に志氣消沈の好培養と存候されば今兩年も經由致候はゞ何れの方面にても出掛け新空氣を呼吸致し度希望に御座候（后略）

＊　＊　＊　＊　＊

會告

○寄贈書目

大日本私立衛生會雜誌 二三五、六、七	同	會
東京醫事新誌 一二四五、六、七、九、一二五〇、一、二、三四	同	局
公衆醫事 六ノ一	同	會
廣島衞生醫事月報 三八、九、四〇	同	社
藥學雜誌 二四〇、一、二	日本藥學會	
岡山醫學雜誌 一四五、六	同	會
產婆學雜誌 二七八、九	日本產婆學協會	
北越醫學會報 一三七、八	同	會
藝備醫事 六九、七〇、一	藝備醫學會	
東北醫學會會報 二三	同	會
衛生談話 一四五、六	通俗衛生茶話會	
順天堂醫事研究會雜誌 三五〇、一、二	同	會
藥石新報 四三〇、一、二、三、四	同	社
日本醫事週報 三六九、七〇、一、二、三、四、五、六、七	同	社
醫海時報 四〇四、五、六、七、八、九、一〇、一、二	同	社
植物學雜誌 十六卷一七九、八〇、一	東京物學會幹事	
藥業報知 三五	同	社
軍醫學會雜誌 一三六、七	陸軍軍醫學會	
醫談 七〇、一	獎進醫會	
中外醫事新報 五二七、八、九、三〇、一	同	社
醫事新聞 六〇九、一〇、一、二	同	社
產科婦人科學會雜誌 四ノ三、四	同	會
助產ノ栞 七〇、一	助產婦學會	
日本助產婦新報 五〇、一	同發行所	
齒學研鑽 三ノ一	富安齒科治療所	
北海醫報 二ノ二	北辰病院研究會	
校友會雜誌 二七	京都府立醫學校校友會	
東京醫學會雜誌 一六ノ六、七、八	同	會
杏林之栞 十四ノ二	玄洋醫會	
成醫會月報 二四〇、一	同	會

學士會月報　一六九、七〇　同　會
大日本耳鼻咽喉科會々報　八ノ三　同　會
日本眼科學會雜誌　六ノ三、四　同　會
治療新報　一二　同　社
國家醫學會雜誌　一七九、一八〇　同　會
獨乙語學雜誌　四ノ七、八　同　社
校友會雜誌　二〇　千葉醫學專門學校々友會
北辰會雜誌　三一　第四高等學校北辰會
躬行會叢誌　一二　同　會
田口和美六十一歳紀念書　一冊　田口和美氏
體育　九九　日本體育會
校友會雜誌　一　大坂慈惠病院醫學校校友會
研瑤會雜　四七　長崎醫學專門學校研瑤會
小池正直 森林太郎 衞生新編　一部
石川清忠實用法醫學　一部
ウェーニヒ獨乙辭書　一部
愛知縣學友會々員共ニ本會通常會員ニシテ故小田隆甫氏ノ紀念ノ爲メ寄附セルモノ

○會費領收（三十五年五月廿五日迄）

金參圓　五ヶ年分（自三十四年度至三十八年度）　太田精一君
金壹圓　一ヶ年分（卅四年度）　竹多乙三郎君
金壹圓　仝　上　岡本京太郎君
金壹圓　仝　上　大屋保次君
金壹圓　仝　上　德木千秋君
金壹圓　仝　上　田中正一君
金參圓　五ヶ年分（自三十四年度至三十八年度）　中島正泰君
金參圓　仝　上　田上清貞君
金參圓　仝　上　飯森益太郎君
金參圓　仝　上　古丸藤三郎君
金參圓　仝　上　山田金一郎君
金參圓　三ヶ年分（自三十四年度至三十六年度）　佐伯亮齊君
金參圓　仝　上　高多久正君
金壹圓　一ヶ年分（卅四年度）　津川恒君
金壹圓　仝　上　瀨尾順四郎君

金壹圓	仝上（仝上）	杉原幹男君	
金壹圓	仝上（仝上）	鹽井竹次郎君	
金壹圓	仝上（仝上）	國分金城君	
金壹圓	仝上（仝上）	高澤清松君	
金壹圓	仝上（仝上）	米村吉太郎君	
金壹圓	仝上（仝上）	岡田剛吉君	
金壹圓	仝上（仝上）	高辻喜作君	
金壹圓	仝上（仝上）	藤井溫良君	
金參圓	三ヶ年分（自三十四年度至三十六年度）	駒井定哉君	
金壹圓	一ヶ年分（卅四年度）	越野義三郎君	
金參圓	三ヶ年分（自三十四年度至三十六年度）	戸田伊代治君	
金參圓	五ヶ年分（自三十四年度至三十八年度）	高柳元六郎君	
金參圓	三ヶ年分（自三十四年度至三十六年度）	輕部修一君	
金壹圓	一ヶ年分（卅四年度）	松井宣正君	
金參圓	五ヶ年分（自三十四年度至三十八年度）	小林茂樹君	
金壹圓	一ヶ年分（卅四年度）	高松岩吉君	

小計金五拾七圓也

明治三十五年五月

十全會雜誌部主計

＊＊＊＊＊＊

次號投稿締切期限

本誌次號は來る七月上旬發行の豫定に付原稿は六月十五日迄に御投寄ありたし但し原著は印刷の都合あれば六月十日迄に御寄送あらむことを望む

明治三十五年五月廿八日

十全會雜誌部